
初年次教育における情報リテラシーに関する 教育内容調査のアンケートのまとめ（1次）

○実施概要

1 調査目的

本アンケート調査は、本学各学部における初年次情報リテラシー教育の状況を把握することで、各学部の取り組みを共有するとともに、更なる学生の情報リテラシー向上に繋げる。

2 調査時期

2021年5月31日（月）～2021年6月30日（水）

3 調査方法

本学各学部から選出の IT センター委員へアンケートを送信し、IT センター事務局へ回答を返信

- ・アンケート（Word ファイル）に回答を記入
- ・設問は計12問（選択式は必須回答、記述式は最初の設問を除き任意回答・文字数制限なし）
- ・設問内容により、学部での情報リテラシー教育科目担当教員、学部代表の教員が回答
- ・学部内に複数の専攻や専修があり、1年次からそれぞれの教育方針が異なっている場合、専攻や専修毎での回答可

4 調査対象

依頼：13（学部） / 回答：18（学部・学科・専攻）

法学部、文学部、経済学部、商学部、社会学部（社会学専攻、心理学専攻、メディア専攻、社会システムデザイン専攻）、政策創造学部、外国語学部、人間健康学部、総合情報学部、社会安全学部、システム理工学部、環境都市工学部（建築学科、都市システム工学科、エネルギー・環境工学科）、化学生命工学部

5 調査結果の報告

IT センター所員会議における確認の上、IT センター委員会に報告する。

6 調査の成果

IT センター所員会議にて調査結果を分析し、本学の情報リテラシー向上に資する IT セ

ンターサービスの検討に活用する。新サービス提供の準備が整い次第、ITセンター委員会等にて周知する予定。

アンケート結果概要

今回のアンケート調査は、各学部における初年次情報リテラシー教育の状況を把握することで、各学部の取り組みを共有するとともに、更なる学生の情報リテラシー向上に繋げ、ITセンターに期待されるサービスの充実や動画コンテンツの提供など、を精査することを目的として実施された。

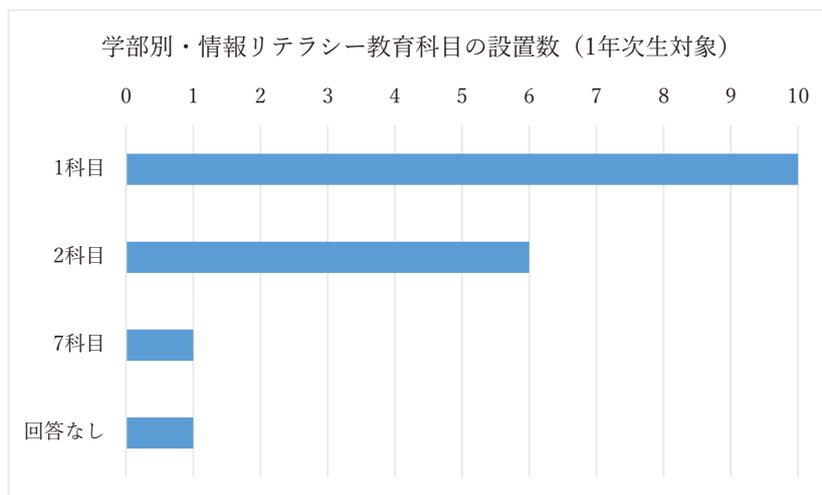
本アンケート調査から、必ずしも全学部・学科で一致するというわけではないものの、学生の情報リテラシー教育で問題と感じる原因には、教員視点からは「カリキュラム上での時間不足や情報リテラシーを扱う専門教員の不足」、学生視点からは「学生間のリテラシーの差」があること、それらの対応としてITセンターには、「情報リテラシーを学ぶ動画」や「eラーニング、出張講義」等のサポートを求めているケースが多いことがわかった。

ただし、単にこうしたコンテンツを用意・提供するだけではサポートとして不十分であり、求めているコンテンツは何か（内容、レベル、媒体、etc.）、教員に使ってもらうためにどう周知すべきか、情報リテラシーが低い学生にどうアプローチすべきかなど、精査すべきポイントも明らかになった。

他にも関大全体として、どう情報リテラシー教育に取り組むべきか、BYODも含めてDXをどう考えていくのか等、大変示唆に富んだ結果が得られたと考えている。こうして得られた貴重な結果を生かし、関大に関わる全員が現代に必要な情報リテラシーを身につけられるよう、よりふさわしい活動を続けていく予定である。

Q1

「1年次生対象の必修科目（必履修科目等を含む）での情報リテラシー教育の状況についてお尋ねします。1年次生対象の必修科目において、情報リテラシー教育を行っている科目はありますか。ある場合は、その科目を教えてください（複数可）」



* 回答なし：1学部（学科・専攻）

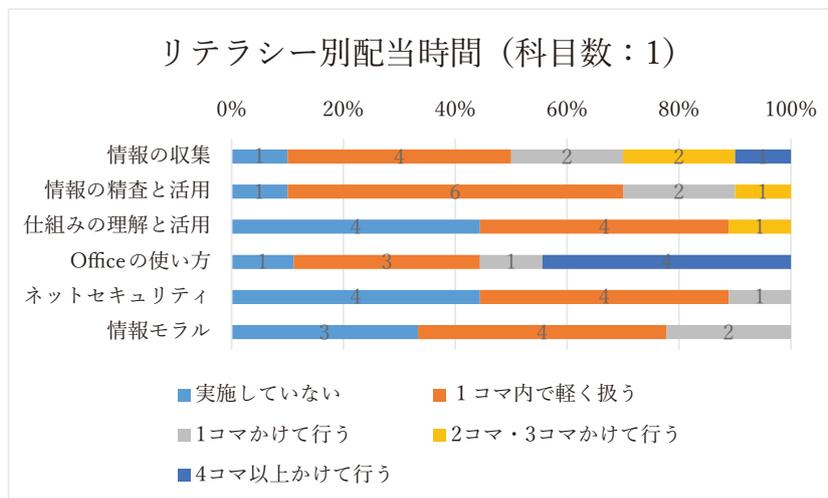
Q2

「お答えいただいた科目において、各リテラシーに対する教育をどれくらいの時間、行っていますか。該当するところに「○」を記入してください。科目が複数ある場合は、それぞれについてお答えください」

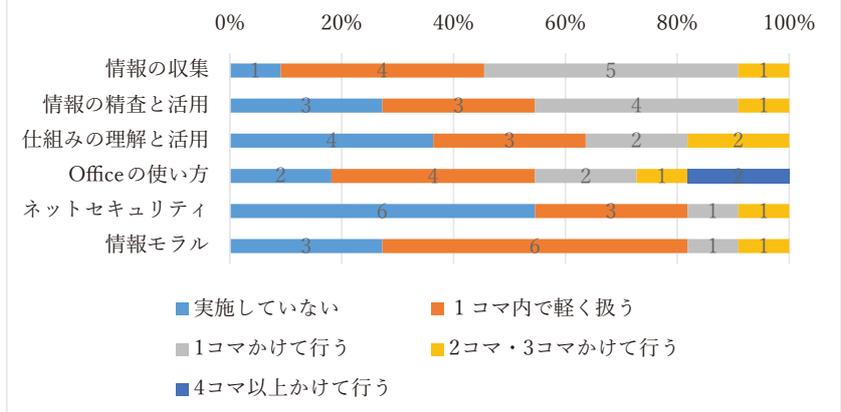
※ 1コマは90分を指します。

※ 「1コマ内で軽く扱う」がさしている時間は、長くとも45分以内です。

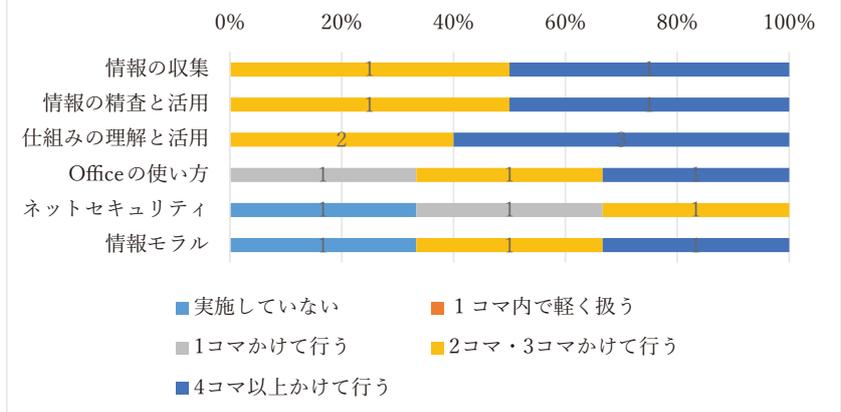
※ 「1コマかけて行う」がさしている時間は、約60分～90分ぐらいの時間を指します。



リテラシー別配当時間（科目数：2）



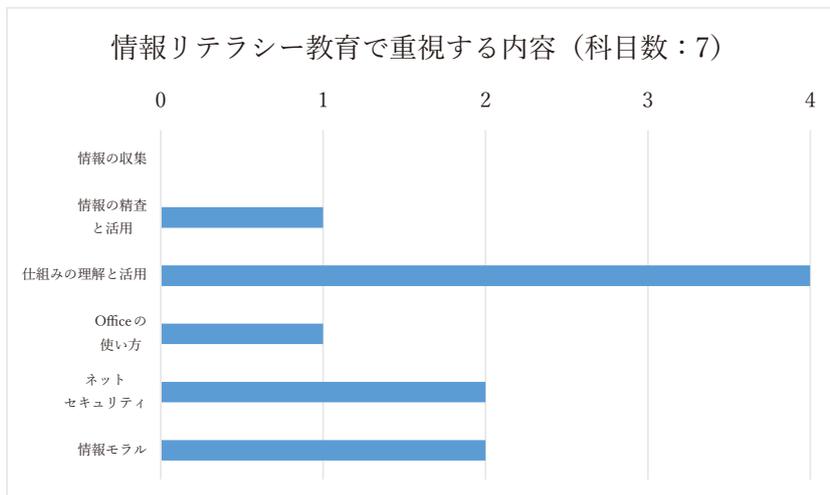
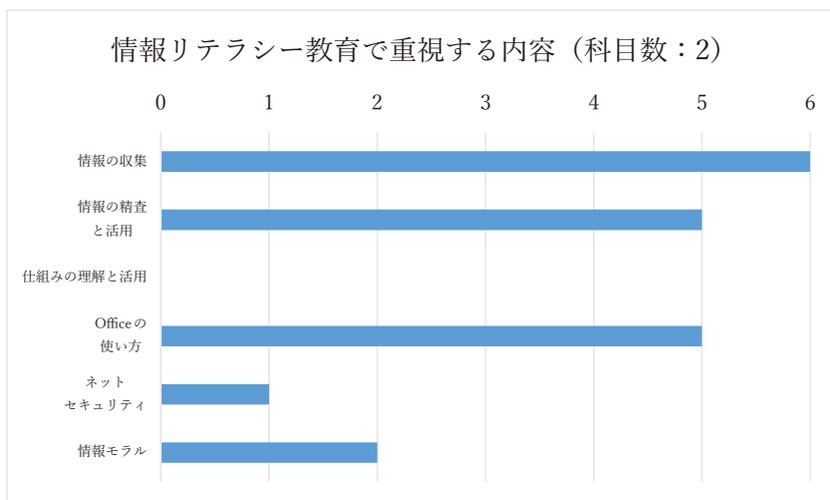
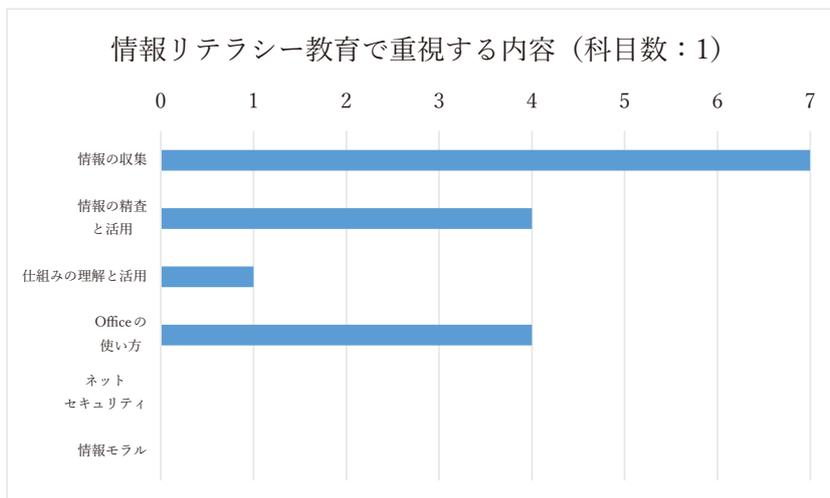
リテラシー別配当時間（科目数：7）



* 回答なし：1学部（学科・専攻）

Q3

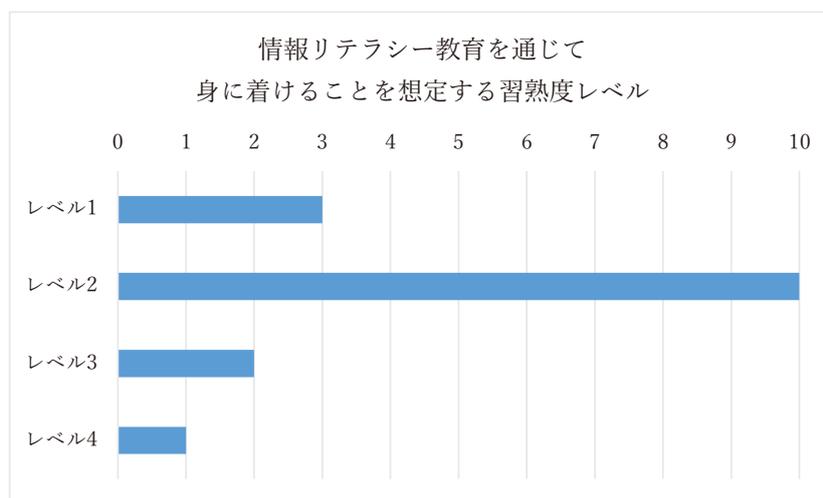
「お答えいただいた科目での情報リテラシー教育において、どの内容を重要視して実施していますか？「情報の収集」～「情報モラル」の6項目のうちから最大2つまで選択し、該当箇所に「○」を記入してください」



* 回答なし：3学部 (学科・専攻)

Q4

「お答えいただいた科目での情報リテラシー教育を通じ、1年次生にはどの程度の情報リテラシーを総合的に身に付けてもらうことを想定していますか？ 本アンケートの末尾にある表1に示したリテラシーの習熟度の中で最も合うレベルのものを1つ選択してください」

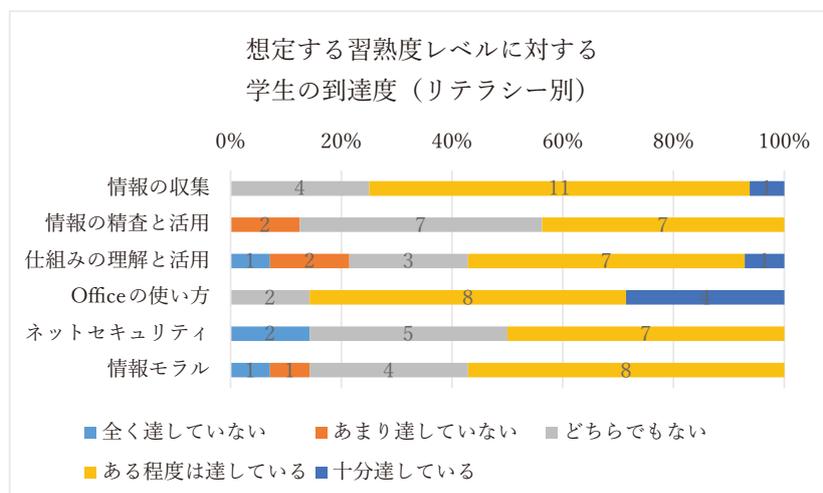


* 回答なし：3学部（学科・専攻）

Q5

「貴学部で実施している1年次生への情報リテラシー教育の内容によって、学生は上記で選択した想定する習熟度レベルにどの程度達しているとお考えですか？ 「情報の収集」～「情報モラル」の6項目に対し、該当するところに「○」を記入してください」

※結果になるため、2018年度～2020年度で実施した結果を踏まえ、どうお考えになっているか、お答えください。



* 回答なし：2学部（学科・専攻）

Q6

「上記設問において「全く達していない」「あまり達していない」とお答えした内容についてお尋ねします。よろしければ、なぜそのようにお考えになられているのか、その理由を教えてください」

【注：以下の意見・提案は、ご回答の主旨を損なわないよう配慮のうえ、学部・学科等が特定されないように要約しています。】

- 当該科目は情報教育を主たる目標とした科目ではないため、情報収集やレポート作成の際のコピー&ペーストの禁止等、最低限の情報リテラシー教育を盛り込んでいるが、それに充てる時間は限られている。
- 学生間の情報リテラシー格差が大きい。情報リテラシーの必要性を自覚していない学生に、強制力を持って指導する機会をどう設けるかが課題である。

*回答なし：14学部（学科・専攻）

Q7

「上記でお答えいただいた内容以外に、貴学部での情報リテラシー教育で課題と感ずることは何かありますか？ご自由にお書きください」

【注：以下の意見・提案は、ご回答の主旨を損なわないよう配慮のうえ、学部・学科等が特定されないように要約しています。】

- 情報リテラシーに関する前提知識について、入学時の学生のレベルに大きな差が存在するため、統一的な教育が難しい。
- インターネットセキュリティの詳細や Microsoft Office の各ソフトの使い方等について、情報教育を専門としている教員が学部にはいない。

*回答なし：10学部（学科・専攻）

Q8

「1年次生の情報リテラシーを向上させ、貴学部での情報リテラシー教育を実現するために、ITセンターとしてどのようなサポートがあれば利用したいと思いますか？」

【注：以下の意見・提案は、ご回答の主旨を損なわないよう配慮のうえ、学部・学科等が特定されないように要約しています。】

- 1年次生の時から、ネットセキュリティや情報モラルについての講習を受講する機会を設けたり、eラーニングを活用した授業を検討してはどうか？
- ITセンターホームページに設けられている AI チャットボットの性能向上や情報リテラシ

ーに関する相談・支援コーナーの設置等、学生が気軽に質問できる環境の整備。

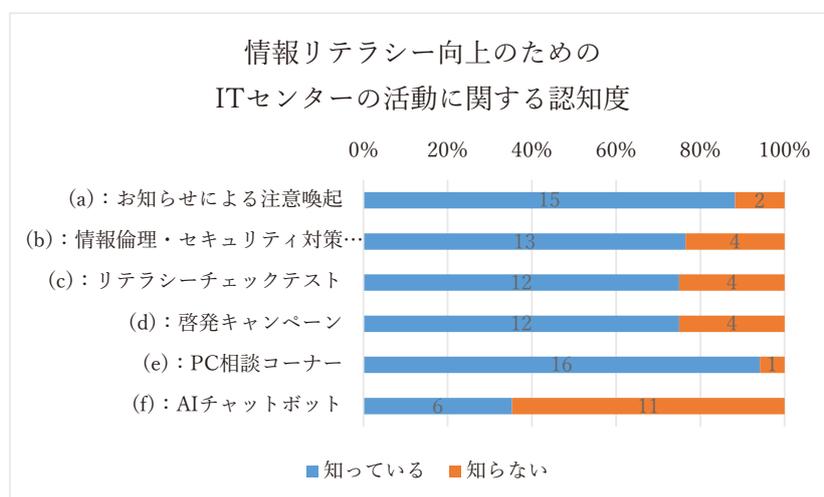
- ITセンターが学生に求める情報リテラシーについて、具体的かつ細分化された指針を提示する。また、学生の能力レベルに応じた情報リテラシーやPC操作に関する講習会等を実施する。

*回答なし：4学部（学科・専攻）

Q9

「これまでITセンターでは、学生の情報リテラシー向上、とくにインターネットリテラシー向上のために、(a)~(f)のような活動を主として実施してきました。これらの活動をご存じか否かを教えてください。該当するところに「○」を記入してください」

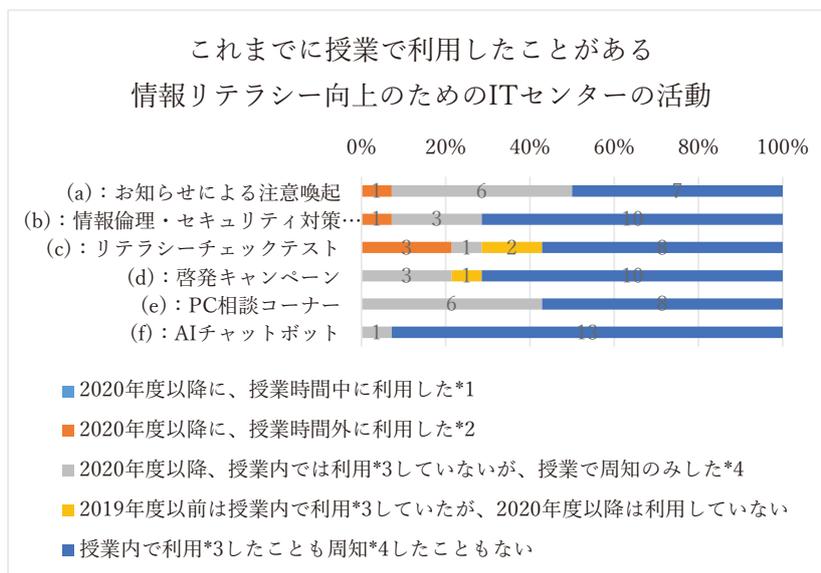
- (a) インフォメーションシステムやITセンターHPでのお知らせによる注意喚起
- (b) ITセンターHPにおける「情報倫理・セキュリティ対策」ページでのさまざまな情報の発信
- (c) ITセンターオリジナルの情報リテラシーチェックテストの公開・実施
- (d) 情報セキュリティ啓発キャンペーンの実施（ポスターの掲示、講習会の実施など）
- (e) パソコン相談コーナーによるヘルプ対応
- (f) 「AIチャットボット/まどか先生に質問する」によるヘルプ対応



*回答なし：1学部（学科・専攻）

Q10

「上記の(a)~(f)の6つの活動で、授業で利用した(=授業と関連して学生に利用させた)ことがあるものがありますか? 該当するものに「○」をつけてください(複数可)」

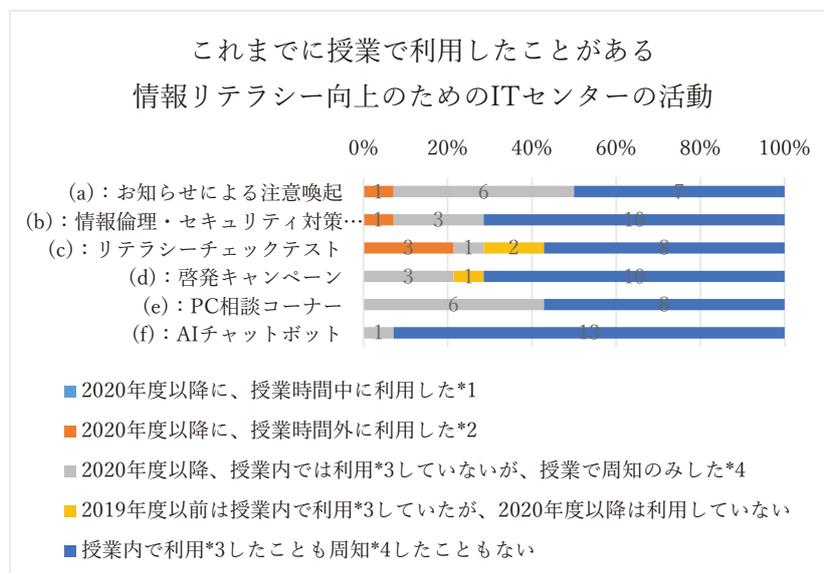


* 回答なし：4学部(学科・専攻)

- * 1 授業時間中に利用：授業に必要なものとして授業計画に組み込み、授業を行っている時間中に利用する(学生に利用させる)
- * 2 授業時間外に利用：授業に必要なものとして授業計画に組み込んでおり、授業の時間外学習や授業を行う上での必要なサポートとして利用する(学生に利用させる)
- * 3 授業内で利用：授業時間中・授業時間外に関わらず、授業に必要なものとして授業計画に組み込んで授業で利用する
- * 4 授業で周知：授業に必要なものとしては考えていないが、学生の日常での自主学習やサポートとして授業内で周知する(授業中に直接口頭で、授業時間外にお知らせで、etc.)

Q11

「今後、上記の(a)～(f)の6つの活動を、2022年度以降、授業で利用したいと思いますか？ 該当するものに「○」をつけてください（複数可）」



* 回答なし：2学部（学科・専攻）

- * 1 授業時間中に利用：授業に必要なものとして授業計画に組み込み、授業を行っている時間中に利用する（学生に利用させる）
- * 2 授業時間外に利用：授業に必要なものとして授業計画に組み込んでおり、授業の時間外学習や授業を行う上での必要なサポートとして利用する（学生に利用させる）
- * 3 授業内で利用：授業時間中・授業時間外に関わらず、授業に必要なものとして授業計画に組み込んで授業で利用する
- * 4 授業で周知：授業に必要なものとしては考えていないが、学生の日常での自主学習やサポートとして授業内で周知する（授業中に直接口頭で、授業時間外にお知らせで、etc.）

Q12

「今回は1年次生に焦点を当てましたが、2年次以上の学生、大学院生、留学生など、さまざまな学生がおり、彼らのITリテラシーをどのように向上させるかも課題の一つと考えています。また、教職員のリテラシーが話題になることもあります。そこで、関大に関わる全員を対象に、ITリテラシーの向上にむけて何かご意見・ご提案があれば記述してください」

【注：以下の意見・提案は、ご回答の主旨を損なわないよう配慮のうえ、学部・学科等が特定されないように要約しています。】

- 情報リテラシー教育について、他学部での導入事例やサポート体制の情報を提供いただきたい。
- 情報処理科目を外国語科目のように、全学部共通の必修科目としない限り、ITリテラシーの強化は難しいと思う。
- 情報に関するモラルは、ほとんどの人間はきちんと理解しているが、ごく一部の者が理解の欠如から問題を起こす。運転免許証のように、違反を起こした者に対しての再教育に重点を置いた方がいいのではないか。
- 学生や教職員が参加できる「情報リテラシー講座」等の提供があれば、全学的な情報リテラシーの啓発活動が展開できるのではないか。

*回答なし：10学部（学科・専攻）

アンケート結果のまとめ

まず、Q1ではほぼすべての学部において、1年次生対象必修（必修履修を含む）として、1・2科目において情報リテラシー教育を実施していることが分かった。

Q2においては、Q1で1・2科目とした学部は6つのリテラシー項目の内、「情報の収集」に関しては、ほぼ全ての学部・学科が1コマ程度以上を当てているが、「情報の精査と活用」、「仕組みの理解と活用」に関しては3分の2程度の学部・学科が実施していないことが分かった。「Officeの使い方」に関しては、6分の1の学部・学科が実施していないのに対し、3分の1の学部・学科では4コマ以上を当てており、学部間で大きな差異があった。また、「ネットセキュリティ」に関しては半数以上、「情報モラル」に関しては、3分の1の学部・学科が実施していなかった。7科目とした学部・学科に関しては、6項目に軽重を付けながら、まんべんなく取り込んでいることが分かった。

Q3においては、Q1で1・2科目とした学部は6つのリテラシー項目の内、「情報の収集」、「情報の精査と活用」、「Officeの使い方」を重要視している学部・学科が多かった。「Officeの使い方」に関しては、Q2で3分の2程度の学部・学科は1コマ程度以下しか当てておらず、興味深い結果となった。

Q4では、8割以上の学部・学科がレベル2以上を想定していた。

Q5では、「ある程度は達している」、「十分達している」と回答のあった学部・学科は、「情報の収集」は4分の3、「情報の精査と活用」、「仕組みの理解と活用」、「ネットセキュリティ」は4割から5割、「情報モラル」は約6割、「Officeの使い方」は8割以上という結果となった。

Q6は、回答のあった学部・学科においても内容に差異があるが、総じては初年次の情報リテラシー教育に学部カリキュラムとしての時間を多くは割けないという事情が見えているように思う。

Q7では、情報リテラシー教育で課題と感じていることは多様であることが分かった。比較的共通していることは、以下のとおり：

- 大学入学以前に受けてきた情報リテラシー教育にかなりの差があるため、学生間の能力差が大きい
- 学部内に情報系専任教員が不足しており、セキュリティ、Officeの使い方なども非専門家か専門を持つ非常勤講師が担当している

Q8では、以下の回答が比較的共通していた：

- ネットセキュリティ・情報モラルに関する講習（e-Learningおよび動画を含む）の提供
- AIチャットボットの充実（適格性）
- スキルの劣る学生に対する「PC入門コース」等のレベル別講習会の提供
- ITセンターが最低限要求する情報リテラシーについての具体的な指針の提示
- 学生が気軽に相談できる環境の充実

Q9では、ITセンターの活動の内、(a)~(e)については多くの学部・学科において知られているが、「(f) AIチャットボット」についてはあまり知られていないことが分かった。AIチャットボットの充実と周知に注力する必要がある。

Q10では、ITセンターの活動はこれまでは授業内ではあまり利用されていないことが分かった。

Q11では、「授業内で利用する予定はないが、授業では周知したい」との回答が多く、ITセンターとしての、より一層の周知活動が必要と考える。

Q12でも各学部・学科から多様なご意見をいただいたので、ITセンターとしても内容を吟味し、継続して検討する必要があるだろう。

【表 1】リテラシーの習熟度

習熟度	到達内容	リテラシーとの対応
レベル 4	<ul style="list-style-type: none"> • 良くデザインされた検索法で、最も適切な情報ソースを効果的に使用して、情報にアクセスすることができる • 見慣れない状況かつ複雑な情報から、いくつかの部分統合して分析的にとらえ、意見をまとめたり整理したり説明したりすることができる • PC が行っている情報処理や PC の構成要素を理解して PC を使いこなすことができ、問題が発生すれば自身で対応することができる • Office ツールの数多くの機能を使いこなし、洗練されたレポートの作成やプレゼンテーションを行うことができる • 表計算ソフトの機能を使いこなし、数多くのデータから適切なグラフを作成したり、自身で関数入力して適切な数学処理をすることができる • 情報セキュリティを十分に理解して安全にインターネットサービスを利用でき、問題が発生しても適切な行動を取り、自身で解決することができる • 著作権や肖像権などの法的責任を理解したうえで、誹謗中傷など様々なトラブルに合わないよう、情報発信には最大限の注意を払い、モラルをもって SNS を適切に利用することができる 	<p>情報の収集</p> <p>情報の精査と活用</p> <p>仕組みの理解と活用</p> <p>Office の使い方</p> <p>Office の使い方</p> <p>ネットセキュリティ</p> <p>情報モラル</p>
レベル 3	<ul style="list-style-type: none"> • 多様な検索法で、いくつかの関連する情報ソースを使用して絞り込み、情報にアクセスすることができる • 見慣れた状況で、複雑な階層を持つ情報から、比較・分類して説明することができる • PC を十分に扱うことができ、サポートやマニュアルを参考にすればある程度の問題に対応することができる • Office ツールの多くの機能を使って、レイアウトの凝ったレポートの作成やプレゼンテーションを行うことができる • 表計算ソフトの機能を利用して、複雑なグラフの作成や関数を組み合わせたの簡単な数学処理をすることができる • 情報セキュリティを十分に理解してインターネットサービスを利用でき、問題点があればそれを指摘することができる • 誹謗中傷など様々なトラブルに合わないよう、情報発信には注意を払い、モラルをもって SNS を利用することができる 	<p>情報の収集</p> <p>情報の精査と活用</p> <p>仕組みの理解と活用</p> <p>Office の使い方</p> <p>Office の使い方</p> <p>ネットセキュリティ</p> <p>情報モラル</p>
レベル 2	<ul style="list-style-type: none"> • 単純な検索法を使用していくつかの情報にアクセスした後、限られたソースや類似したソースから絞り込み情報にアクセスすることができる • 見慣れた状況で、複数の階層を持つ情報から、いくつかの情報を関連付けて結び付け、整理・判断することができる • 普段の利用においては困らないレベルで PC を利用することができる • Office ツールの機能を使って、レポートの作成やプレゼンテーションを行うことができる • 単純なデータに対し、表計算ソフトの機能を利用してグラフの作成や平均などの処理をすることができる • 基本的な情報セキュリティを理解してインターネットサービスを利用することができる • 誹謗中傷など様々なトラブルがあることを理解して SNS を利用することができる 	<p>情報の収集</p> <p>情報の精査と活用</p> <p>仕組みの理解と活用</p> <p>Office の使い方</p> <p>Office の使い方</p> <p>ネットセキュリティ</p> <p>情報モラル</p>
レベル 1	<ul style="list-style-type: none"> • 単純な検索法を使用して情報にアクセスすることができる • 見慣れた状況かつ単純な階層を持つ情報から、限られた情報を結び付けて整理・判断することができる • PC の基本的な操作をすることができる • Office ツールの基礎的な機能を使って、簡単なレポートの作成やプレゼンテーションを行うことができる • 表計算ソフトの簡単な機能を利用することができる • インターネットサービスを利用する上で、情報漏洩などに代表されるいくつかの情報セキュリティインシデントが問題となっていることを知っている • SNS の利用において、誹謗中傷など代表的ないくつかのトラブルが問題になっていることを理解している 	<p>情報の収集</p> <p>情報の精査と活用</p> <p>仕組みの理解と活用</p> <p>Office の使い方</p> <p>Office の使い方</p> <p>ネットセキュリティ</p> <p>情報モラル</p>

